

感染症発生動向調査

Infectious Diseases Weekly Report

●全数報告の感染症（1～5類感染症）

（今週の報告数／累積。累積は2025年第1週から）

疾患名	報告数	累積
[1類]		
（報告なし）		
[2類]		
結核	233	6028
[3類]		
コレラ		3
細菌性赤痢		24
腸管出血性大腸菌感染症	68	753
腸チフス		13
パラチフス		3
[4類]		
E型肝炎	13	271
A型肝炎	3	67
エキノコックス症		10
エムボックス ¹⁾		1
オウム病		7
回帰熱		3
コクシジオイデス症		2
重症熱性血小板減少症候群	8	76
ダニ媒介脳炎		1
チクングニア熱	1	8
つつが虫病	3	85
デング熱	1	63
日本紅斑熱	19	190
ボツリヌス症		1
マラリア	1	9
ライム病		1
レジオネラ症	68	881
レプトスピラ症		2
[5類]		
アメーバ赤痢	8	210
ウイルス性肝炎 ²⁾	2	105
カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症 ³⁾	12	652
急性弛緩性麻痺 ⁴⁾	1	12
急性脳炎 ⁵⁾	4	274
クリプトスポリジウム症		13
クロイツフェルト・ヤコブ病	5	77
劇症型溶血性レンサ球菌感染症	23	743
後天性免疫不全症候群	19	369
ジアルジア症	2	15
侵襲性インフルエンザ菌感染症	15	377
侵襲性髄膜炎菌感染症	2	47
侵襲性肺炎球菌感染症	61	2169
水痘（入院例に限る）	16	294
梅毒	199	6288
播種性クリプトコックス症	2	78
破傷風	1	33
バンコマイシン耐性腸球菌感染症		45
百日咳	2970	31966
風しん		6
麻疹	6	142
薬剤耐性アシネトバクター感染症		4

1) 2023年5月26日よりサル痘から感染症法上の名称が変更。2) E型肝炎およびA型肝炎を除く。3) 2023年5月26日よりカルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症から感染症法上の名称が変更。4) 急性灰白髄炎を除く。5) ウエストナイル脳炎、西部ウマ脳炎、ダニ媒介脳炎、東部ウマ脳炎、日本脳炎、ベネズエラウマ脳炎およびリフトバレー熱を除く。

2025年第24週（6月9～15日）

（国立健康危機管理研究機構国立感染症研究所）

●定点把握の5類感染症

（「定点当たり」は報告数／定点医療機関数）

疾患名	報告数	定点当たり
インフルエンザ ⁶⁾	1141	0.30
新型コロナウイルス感染症	3455	0.90
RSウイルス感染症	528	0.22
咽頭結膜熱	1747	0.74
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	7158	3.03
感染性胃腸炎	14739	6.25
水痘	1435	0.61
手足口病	600	0.25
伝染性紅斑	4780	2.03
突発性発しん	925	0.39
ヘルパンギーナ	566	0.24
流行性耳下腺炎	257	0.11
急性出血性結膜炎	15	0.02
流行性角結膜炎	582	0.83
細菌性髄膜炎 ⁷⁾	9	0.02
無菌性髄膜炎	32	0.07
マイコプラズマ肺炎	252	0.52
クラミジア肺炎 ⁸⁾	2	0.00
感染性胃腸炎（ロタウイルス） ⁹⁾	43	0.09
急性呼吸器感染症	215699	56.07
インフルエンザ（入院患者）	17	—
新型コロナウイルス感染症（入院患者）	362	—

6) 鳥インフルエンザおよび新型インフルエンザ等感染症を除く。7) 髄膜炎菌、肺炎球菌、インフルエンザ菌を原因として同定された場合を除く。8) オウム病を除く。9) 病原体がロタウイルスであるものに限る。

●定点把握の対象となる5類感染症

（前週からの定点当たりの増減と多い地域）

疾患名	増減	地域
インフルエンザ	↓	沖縄、佐賀、山口
新型コロナウイルス感染症	↓	沖縄、京都、熊本
急性呼吸器感染症	↓	岩手、埼玉、栃木
RSウイルス感染症	↓	沖縄、山形、新潟
咽頭結膜熱	↑	島根、鹿児島、岡山
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	↓	埼玉、茨城、愛媛
感染性胃腸炎	↓	島根、愛媛、岐阜
水痘	↑	埼玉、神奈川、東京
手足口病	↑	奈良、高知、沖縄
伝染性紅斑	↓	山形、北海道、栃木
ヘルパンギーナ	↑	福岡、佐賀、長崎
流行性耳下腺炎	↑	福島、岩手、栃木、新潟
マイコプラズマ肺炎	↑	秋田、福井、熊本

◆水痘

2021年以降、国内の水痘の報告数は低水準で推移していたが、25年第24週は、定点当たり累積報告数、入院例の累積報告数が過去5年間の同時期と比較して最多となった。水痘は水痘・帯状疱疹ウイルスの初感染で発症し、感染力が強く、主に空気感染、飛沫感染、接触感染で伝播する。